3　高齢者大動脈弁狭窄症に対するステントレスバルブによる弁置換術の一例

大関　一・斉藤　正幸（県立新発田病院
島田　晃治・中山　健司　心臓血管外科）
中川　巌・伊藤　英一（同
田辺　恭彦・鈴木　薫　循環器内科）

症例は74才女性．平成13年6月6日，呼吸困難を主訴に循環器内科に緊急入院．心臓カテーテル検査で左室－大動脈に112 mmHg の圧差を有する重症大動脈弁狭窄症と診断された．高齢，大動脈弁輪径が狭少なので，血行動態に優れるFreestyle 弁を選択し7月25日に手術した．大動脈弁は3弁あり，石灰化病変が高度であった．弁を切除し Medtronic 社の 21 mm 径 Freestyle 弁を subcoronary 法で縫着した．体外循環離脱時IABP を要したがその後の心機能の回復は速やかであった．術後1ヶ月に行った心臓カテーテル検査で左室－大動脈圧差は 0 mmHg で LVEDV 190 ml→151 ml, LVESV 99 ml→59 ml, LVEF48→61%（それぞれ術前→術後）と著明な改善をみた．Freestyle 弁は高齢者の大動脈弁置換術の際，選択を考慮すべき代用弁の一つと考えられた．

テーマ演題

1　新潟県における重症下肢虚血患者の実態調査について

加藤　公則・西川　尚
那須野暁光・吉田　剛
林　学・阿部　暁
太刀川　仁・柏村　健
土田　圭一・中村　裕一（新潟大学大学院
堀　知行・塙　晴雄　医歯学総合研究科
小玉　誠・相澤　義房　循環器学分野）

【背景と目的】高齢化社会を迎え，閉塞性動脈硬化症（ASO）が急増しており，従来の治療に対する難治例を多く経験するようになってきた．また，バージャー病（TAO）の頻度は年々減少しつつあるが，ASO と異なり血行再建術可能例が少ないことより，従来の治療法以外の治療が必要となっている．今回，我々は『骨髄細胞移植による末梢血管疾患（慢性閉塞性動脈硬化症，バージャー病）の治療』を新潟大学医学部倫理委員会に提出し，この臨床研究が許可されたため，県内における，Fontaine Ⅲ，Ⅳ度にあたる重症下肢虚血例の実態調査を行った．

【方法】新潟県内の主要病院に手紙を送り，アンケート形式にて ASO，TAO の症例数を Fontaine 分類に基づいて解答してもらった．さらに，重症虚血下肢の実体をより明らかにするために，平成12年中に行った，下肢切断術の数，さらに，血行再建術としてバイパス術や経皮経管的血行再建術（PYA）を施行した症例数の解答をもらった．

【結果】15施設31診療科より回答を頂いた．下記にその結果を示す．

疾患名	ASO				
Fontaine 分類	Ⅰ度	Ⅱ度	Ⅲ度	Ⅳ度	合計
症例数	372	224	32	14	642
疾患名	TAO				
Fontaine 分類	Ⅰ度	Ⅱ度	Ⅲ度	Ⅳ度	合計
症例数	37	29	5	5	76

さらに，治療として，PTA は48例，バイパス例は112例，下肢切断術は37例であった．

【結論】細胞移植治療の対象となる重症下肢虚血症例は，ASO: 46例，TAO: 10例であった．しかし，そのうちバイパス術等の血行再建術が不可能な症例が本治療法の対象となる．また，下肢切断術対象例においては，下肢切断に至る前に本治療法を施行し，少なくともより低位切断となる可能性を模索することが必要であると考えられた．

2　治療に難渋し，重篤な合併症をきたした重症川崎病の一例

佐藤　誠一・鳥谷部真一
長谷川　聡・遠藤　彦聖（新潟大学大学院
鈴木　博・矢崎　諭　医歯学総合研究科
廣川　徹・内山　聖　小児科）

1999年9月22日（0歳9カ月）より発熱みられ，全身発赤，下肢の浮腫が出現したため某病院に紹介された．入院時，口唇，眼球結膜の充血が認められ，リンパ節腫脹以外の5症状が出現したことから川崎病と診断された．γグロブリン大量療法